

文化庁メディア芸術祭 関連展示

高浜寛 『ニュクスの角灯』 —^{いま}時代を見つめる—

— 羽田空港国際線旅客ターミナルにて開催中 —



この度、文化庁は、東京国際空港ターミナル株式会社の協力のもと、羽田空港国際線旅客ターミナル5階ラウンジフロア（114番ゲート付近）にて、第21回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞受賞の高浜寛氏の展示を開催中です。

【開催概要】

会期：2019年2月5日（火）～3月29日（金）※会期延長の可能性あり

場所：羽田空港国際線旅客ターミナル5階ラウンジフロア（114番ゲート付近）

入場料：無料（本展は、羽田空港国際線旅客ターミナルの出国手続きを終えられた方のみご鑑賞いただけます。）

展示作品：描き下ろし作品5点、原画3点

【展示内容】

日本には、150年前に明治時代という過去がありました。現在の私たちから見れば過去ですが、当時の人々にとってはそれが現在であり、当時の人々も今を生きるため、様々な想いととも時代を過ごしていました。高浜寛の『ニュクスの角灯』は明治時代を舞台に少女・美世と道具屋「蛭」、その店主・百年を中心に、様々な人の想いが交錯する様子を描いたマンガ作品です。

第21回文化庁メディア芸術祭マンガ部門で優秀賞を受賞した本作は、フィクションでありながらも丁寧な時代考証とともに史実が織り交ぜられ、当時、西洋から輸入されてきた最先端の道具や文化が物語を華やかに彩っています。本展では、高浜寛による描き下ろし作品を展示します。本作の物語は明治11年（1878年）から始まりますが、ここでは、作中で描かれてこなかった、登場人物たちの明治元年前後の一場面などを垣間見ることが出来ます。様々な人々と文化が行き交う、この羽田空港国際線ラウンジで開催される本展で、描かれている道具や背景にも注目しながら、明治という時代に思いを馳せると、彼女たちの時代を見つめる視線が、私たちにとっても現在や未来を見つめる契機となるかもしれません。



© Kan Takahama / LEED Publishing

第21回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞

『ニュクスの角灯』 高浜寛 [日本]

西洋文化の波が押し寄せる1878年（明治11年）の長崎で、西南戦争で親を亡くし、独り身となった少女・美世は、道具屋「蛭」で奉公を始める。外国人とのハーフである店主・小浦百年がバリ万博で仕入れてきたドレスやミシン、双眼鏡、ブーツといった道具は、美世の好奇心を掻き立てた。美世は幼いころから持つ、モノの過去と未来の持ち主がわかる不思議な力を使いながら、仕事を通じて経験を重ねていく。百年に対して恋心に似た感情を覚え始める美世の変化や、明かされていく百年の過去を中心に、商人や遊女たちで賑わう長崎を訪れた新しい時代を瑞々しく描く。綿密な考証をもとに、当時の華やかな時代背景とともに事物が描き込まれ、ミニコラムとして作中に登場したアンティークに関する豆知識が挟まれるなど、作者の持つ知見が生かされ、作品の実在感が高められている。

報道問合せ先：文化庁メディア芸術祭事務局 [CG-ARTS内] 広報担当 瀬賀

Email: jmaf-pr@cgarts.or.jp Tel: 03-3535-3501 Fax: 03-3562-4840

〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-16 ※受付時間：平日10時～18時

文化庁
メディア芸術祭